

- ▶ 山口県では、人口減少・高齢化等により林業の担い手不足が課題となっている。
- ▶ このため、山口県農林総合技術センター「農林業の知と技の拠点」を核とした人材育成に取り組んでおり、令和6年度から新たな研修体系「やまぐち森林・林業未来維新カレッジ」（6コース49講座）を構築し、本県林業の未来を切り拓く人材と林業事業体の確保・育成を図る取組を強化した。

□ 事業内容

やまぐち森林・林業未来維新カレッジ事業

「就業者」と「事業体」を対象とした新たな研修制度の創設により、林業経営力の底上げを図るとともに、次代を担う林業人材の確保・育成対策を強化

【事業費】49,696千円（うち譲与税35,064千円）

【実績】6コース49講座実施 受講者数 793人

□ 取組の背景

- ・ 林業就業者数が減少傾向で推移する中、さらなる担い手の確保・育成が急務。
- ・ 新規就業者の受け皿を拡大するため、小規模事業体の林業認定事業体への移行を推進するなど、林業事業体の経営力・経営基盤を強化する必要がある。
- ・ 林業の死傷年千人率は23.5(令和4年)と、全産業の2.3と比べ約10倍と高く、離職要因の一つともなっていることから、林業関係者が一体となって林業労働災害の撲滅に取り組む必要がある。



（研修の様子）

□ 工夫・留意した点

- ・ 就業者や事業体の成長段階に応じた専門的・体系的な研修を構築
- ・ 新規就業者からリーダー候補までのキャリア形成を支援
- ・ 労働安全対策の徹底的な強化
- ・ 林業事業体の「経営力」の強化
- ・ 起業・副業・リスクリング等による、多様な事業者や人材の確保

□ 取組の効果

研修内容を体系的に構築したことで、就業者や事業体の状況に応じ、技術習得・向上、経営改善など、よりきめ細かな支援が行えるようになった。

（令和5年：27講座 受講者329人 →令和6年：49講座 受講者793人）

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：114,373千円	②私有林人工林面積（※1）：126,612ha
③人口（※2）：1,342,059人	④林業就業者数（※2）：970人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より